

第5回外洋加盟団体長会議 議事録

日 時 : 平成28年10月1日(土) 13:00~17:20

場 所 : KKRホテル熱海3F会議室

出席者 : (理事)

坂谷定生常務、平松隆、中澤信夫、大島茂樹、平井昭光、宇都光伸、
菊池邦仁

(加盟団体)

津軽海峡 会長 荒山雅仁、津軽海峡事務局長 井口龍太、いわき会長(理事兼) 菊池邦仁、東京湾会長 足立利男、東京湾事務局長 望月規矩雄、
三崎会長 新田肇、三崎事務局長 中里英一、三浦会長 尾山純一、湘南会長(理事兼) 平井昭光、湘南事務局長 作田智恵子、駿河湾会長 浅井一省、
東海会長(理事兼) 坂谷定生、

東海事務局長 河内道夫、近畿北陸会長 高橋利明、内海会長 妹尾達樹、
内海事務局長代理 北中育子、西内海副会長 金井寿雄、南九州会長(理事兼) 宇都光伸、南九州事務局長 市来孝夫、南九州常任委員 石川国彦

(委員会)

外洋計測委員会委員長 吉田豊、外洋計測委員 川合紀行、国際委員会外洋
小委員会委員長 鈴木一行、ルール委員会外洋小委員長 大村雅一、
レース委員長 三浦信郎、キールボート委員長(理事兼) 中澤信夫

(事務局)

外洋常任委員会事務局 鈴木保夫

JSAF事務局次長 寺澤寿一

(順不同、敬称略) 合計30名

1. 開会挨拶

坂谷常務理事: J70ワールドと本日の会議が重なったため、植松副会長が欠席しているが、宜しく伝えて頂きたいとのことでした。

坂谷常務理事が議長となり議事録署名人に、平井昭光理事、妹尾達樹内海会長の両名を指名して議事に入った。

2. 議事

<報告事項>

1) JSAF および外洋艇推進グループ新組織について

坂谷: JSAFの組織図を説明する。

桑原氏が副会長となり、森山前副会長が顧問となった。

外洋艇推進グループ組織図にあるとおり、外洋安全担当委員会の担当理事に、菊池邦仁新理事、レース委員会外洋小委員会担当理事に宇都光伸新理事が就任した。

外洋加盟団体長会議は、定期開催を現状に合わせ合同委員会会議ではなく、全国代表者会議に合わせて翌日に行うこととして明記した。

ワーキンググループの組織も新体制とし、組織およびビジョン策定WGとオープンレースWGは理事全員が担当理事とし、メンバーは外洋常任委員会メンバー全員とした。ジャパンカップ及び全日本選手権大会検討委員会のメンバーは外洋専門委員会委員長全員とした。

2) 主催者賠償責任保険の内容について

坂谷：前回の会議では、「契約する」との報告であったが契約した。

資料は契約申込書と明細書のコピーである。

対人賠償は1名3千万円、1事故で3億円である。

主催及び共催する全ての外洋ヨットレースの運営が対象である。

国外での事故も対象になるが、訴訟場所は国内が対象であり、訴訟場所が外国の場合は対象外であるので注意して頂きたい。

新田：外洋三崎の主催レースで借り上げた船が実行委員会の不手際で破損した場合は対象になるか？

坂谷：初期対応は責任の所在が分かっても対象になると思うが、借上艇の例については詳細を確認する。

新田：具体的な例があれば提示して欲しい。

平井：外国人が参加する場合は適用外になるので気を付けた方が良い。

3) ライフジャケット着用義務化及び無線検疫について

大村：小型船において、水上オートバイ、船室外の12歳未満の小児、1人で漁をするもの以外の船室外のすべての乗船者には、ライフジャケットの着用は努力義務となっていたが着用義務となるように改正される予定。そこでのライフジャケットは「桜じる」のこと。

現在、ライフジャケットの適用範囲を広げて欲しいと要望している。

JSAF登録艇がレース中とレースの練習中はJCIの認定品以外のライフジャケットを適用するように要望したところ、検討するとの回答であった。

その他の場合は認定（桜印）されたライフジャケットの着用が義務となる。

「船舶衛生証明書」を取得しておく、海外からの帰国時に検疫が無線でOKとなる。

作田：ライジャケ着用免除はJSAFのクラブレースには適用されるか。

大村：加盟団体・特別加盟団体が主催のレースは適用されることで交渉している。

JSAFが管理しているレースが対象であり、カテゴリーに合ったライジャケであれ

ばOK。予め、レースにライジャケを着用することを説明しておけば理解を得やすい。

平井：フード付きのライジャケを認定して欲しい。

大村：検査を受けなければ認定されない。

平井：J S A Fが事業者とタイアップして認定を受けたらどうか。

大村：費用が掛かるが負担できればOK。

吉田：ディンギー用のライジャケはどうか。

大村：レース規則に合致していればOK。

4) ジャパンカップ2016について

坂谷：10艇のエントリーが最終的に8艇の参加となり、サマーガールが優勝して、無事終了した。

5) ジャパンカップ2017の開催計画について

平松：8月22日に関東4団体で検討会を行った。

4団体が協力して開催する方向で動いているが、問題は開催時期が夏であるので、係留場所の確保、そしてシーボニアYCの協力と600万円位の予算が必要なのでそれが集まるかである。

シーボニアからは、夏場に40ft10艇は無理、夏を外せば可能であるとの回答であった。

分散係留を検討したが、レース委員会としては1箇所にして欲しいとのことであった。

シーボニアYCの協力は得られた。

スポンサーが見つからなければ、1艇40万円～50万円の参加費となる。

リビエラからの見積が来ているので、近々4団体で検討する。

6) 韓国の竹島回航ヨットレースへの招待に対する回答について

坂谷：資料は英文で抗議した文書と加盟団体に送った和文である。

会員は参加しない様にして欲しいと言う意味である。

7) 「海と日本プロジェクト」事業参加について

坂谷：配付した資料は日本財団の補助金事業について、2016年開催の助成対象事業の一覧表である。

事業費用の80%が補助される。

市来：南九州では、レースの一部を補助対象としてもらった。

ウェルカムパーティーに一般人にも参加してもらった。

錦江湾でディンギーとSAP、種子島ではクルーザーの体験セーリングを実施した。

全部で500人～1500名の参加があり、現在報告書を作成中である。

妹尾：南九州のイベントは市町村との共催か、又は単独か？

市来：市町村とコラボした

坂谷：J S A Fが一括で纏めているので、単独でもコラボでも良い。

8) アメリカズカップの近況について

坂谷：外人の観光客が多いのと、他のイベントと重なっているため、ホテルが取りづらい。

興味のある方は問い合わせを下さい。

9) 危機管理ワーキンググループ最終報告について

坂谷：前回の団体長会議で報告したが、その後理事会に報告した資料が手元の資料である。

事故例の報告が欲しいが、なかなか上がってこない。

上がってこない理由は、J S A Fと加盟団体との間に義務と権利の契約が無いからではないかと考える。

J S A Fの理事会で、危機管理チームの必要性を投げかけたが、議論にならなかった。

<外洋専門委員会からの報告、依頼など>

1) 外洋計測委員会

吉田：計測委員会には、I R C、O R C、技術、セールメジャー、P H R Fの5委員会がある。

O R C委員会が新たにできたが、O R Cを採用するか否かはその大会の主催者が選択するものであると考える。

日本でのこれからのレーティングシステムを考えると、300隻から400隻の利用状況では、海外のメジャーなレーティングシステムを導入して国内のレースを行う選択肢しかない。その時の世界で使用されているシステムを国内に導入することになる。ルールブックの変更に伴い、E R Sも変更されるのでE R Sの翻訳や語句の確認作業を行った。

2月の合同委員会会議において、E R S講習会を開催する予定。

I R Cの日本でのレーティング登録艇数は、資料のとおり8月31日現在で341艇となっている。

O R C委員会は10名で運用している。

国内で証書の発行ができ、O R CのHPで閲覧できる。

今年度は、58艇の証書の発行を行った。

現在レースマネージメントプログラムの構築を進めている。

レースマネージメントプログラムはO R Cの成績に対応しているが、将来的にはI R Cの成績にも対応できる様に考えている。

O R CのコンGRESS、WS総会には、O R CコンGRESSに計算室の高垣氏、O R C委

員として、植松副会長と小林氏の出席が予定されている。

年末にかけて2隻のORCIの計測を予定している。

計測可能な技術の保持者が現在2名のみであるので、4名程度に増やしたいと考えている。

座間味レースに参加したが、公示の参加資格に「ORCを取得している艇」とあったが、実際に取得している艇は2艇しかなかった。

また、レース後にレーティングを変更していた。

参加艇のオーナーが抗議をしたが、回答が無かった。

きちんとしたレーティングで行って欲しい。

中里：ORCIの取得費用は。

吉田：3Dハルスキャナで測定する方法とデザイナーデータを使う方法とがある。

スキャナーは1回につき約20万円掛かるがデータを使えば、IRCのエンドース程度と思う。

中里：2艇同時に行えば安くなるか。

吉田：考えてみる。

三浦：ERSの講習会を開催するが、場所は蒲郡で2月3日～2月5日の間を予定する。

平松：ダブルエントリーについてのレース委員長の考えは。

三浦：ルールは無いが、両方を全て満たしていれば問題ない。

外洋東海ではレースのグレードでも判断している。

吉田：パールレースでのダブルエントリーは 両方のレースルールをクリアしなくてはいけないので、参加条件は厳しくなると思う。個人的には 比較してみるのには意味があると考えている。

金井：西内海ではダブルエントリーを多くやっているがトラブルはない。

4) レース員会外洋小委員会

三浦：5月～10月まで運営に協力しているが、事故の報告が上がってきている。

事故の無いようにお願いしたい。

2) 外洋安全委員会

坂谷：ライジャケについて先程説明したが、海上保安庁への要望については外洋安全委員会と連携して交渉しているので承知しておいてください。

中里：安全週間のパンフレットをもっと早く送って欲しい。

安全週間が終わってから、会員に届くような状況なので、間の抜けた格好になっている。

坂谷：(外洋安全委員会委員の川合氏に対し) この件は一度外洋安全委員会で調整して下さい。(川合氏了解する。)

3) ルール委員会外洋規則小委員会

大村：今年はルールの改正があり、新しいルールブックを11月末に発行する。

大型艇に関する改正箇所はルール委員会で案内する。

サポートボートに対するルールが変わる。

抗議するときは「抗議」ではなく「プロテスト」と言って抗議をすることになった。

A級ジャッジの更新年であるので、更新講習会を10箇所で開催する。

B級ジャッジは加盟団体において、1日でEROとジャッジの資格が取得できるように計画している。

ジャッジ証は発行しない。名簿をHPにUPするのでそこで確認するようにする。

中里：ルールブックの販売価格の基準はあるのか。

大村：原則2,800円で販売してもらいたい。

作田：会員ではなくなった人が、ルール委員会HPのジャッジの名簿に載っている。

大村：今後、更新にあわせチェックする。

5) 国際委員会外洋小委員会

鈴木（一）：トピックスを資料に纏めた。

ワールドセーリングカップが日本で18年から20年まで開催される。

ルイヴィトンカップがアジアで初めて福岡で開催される。

チケットは本日よりローソンで販売されている。

スポーツ・フォー・Tomorrowは10月にインドネシアとミャンマーの選手を招待して行われる。

・オリンピック準備委員会

平松：毎年セーリングワールドカップを開催しており、その年のチャンピオンが決まっている。

アメリカズカップは、TV東京で特別番組が放映される予定。

東京オリンピックでは艇種が変わる可能性がある。

オリンピックに外洋系の協力を是非お願いしたい。

作田：プレオリとセーリングワールドは同一か。

平松：2019年がプレオリになると思われるが、まだ決まっていない。

・キールボート強化委員会

中澤：第8回ワールドユニバーシティ セーリングチャンピオンシップ（オーストラリア パース）に学生&U25 マッチ優勝チームを日本代表チームとして派遣する。

中国の大会には、葉山の「ターコイズチーム」を派遣する。

和歌山で開催したJ24世界選手権は、学生マッチ出身の若い選手達が上位入賞した。

・艇登録WG

鈴木（保）：外洋艇登録規則改定（案）対照表を配布した。

これは昨年、外洋湘南、外洋東海、外洋内海の事務局担当者の会議を行った後に作田さんより提案された（案）を若干修正したものである。

現在WGの長は作田さんであるが代わりに説明する。

今まで議論されてきたが、規則そのものが訂正されていなかったのが訂正した。

前回の団体長会議で艇登録証に記載されている項目を簡素化することを提案したが、本日配付したものは（案）である。

文字だけではなく。ヨットのデザインも標記してみた。

それに合わせて艇登録の申込書も改正する必要があるのでサンプルを作成した。

昨年より、艇の情報をHPで開示しているが、今後は申込の際に開示することの承認を取るようにしたい。

以上について、後日で良いので意見を頂きたい。

妹尾：艇登録証は英文のバージョンも作成してもらいたい。

発効日は4月1日～更新までとしてもらいたい。

新規の登録証は発行の日とする。

尾山：日本語が読めない人のために、英文にした方が良いということなので、更に会長の印をサインにしたらどうか。

6) J S A F 総務委員会

鈴木（保）：J S A F では既に新たな会員管理システムを運用しているが新システムに移行してくれる団体が少ない。

特に、一部の団体は既に会員の銀行口座から自動引き落としされており、団体にとってのメリットは少ないと考えるのがその理由と思われる。

Web での入会システムは他の団体の会費がわかってしまい、会費が団体によって異なる。

外洋系の団体においては、会員の減少に繋がるとの不安もあるかも知れないが、新会員管理システムは全団体が利用しないとコスト削減の効果がでない。

総務委員会としては、来年度から会員証は発行しないことにした。

会費の決済方法を順次、決済代行に切替えてもらいたい。

作田：J S A F と団体は上下関係にない。

会費の徴収方法を切り替えると会員が1回で辞めてしまうのではないかと思うので今のままで行きたい。

メールアドレスの登録にしても、会員のどのメールアドレスが活着ているのかわからない。

会員の様子が新会員システムではわからない。

寺澤：会員の登録は過去にはレースのための登録が多かった。

2年運用してみて、オンラインが2,000人、残りが8,000人となっている。
来年度から会員証は発行しないが、WebよりPDFで取得できるようになっている。

JSAF事務局としては事務局の効率化の観点から、決済代行システムに切替えても-
らうことを願います。

作田：会員ではなく、団体の事務局で代行できれば、JSAFの決済方法に切替えても良い。

河内：会員の承認をとらなければ、いわゆる「成りすまし」になってしまう。

鈴木（保）加盟団体で代行する方法についてどのような方法があるか調査してみる。

尾山：外洋三浦では事務局が努力して現在の自動振替となった。

中里：現在の団体による自動引き落としから切り替わるのであれば、外洋三崎においては会員が20%程度減ることが予想される。

平井：加盟団体・特別加盟団体への直接納付廃止は反対である。

制度の改訂について弁護士関連で例を挙げると数年前に弁護士を増やすことにしたが混乱が生じた。制度は大事だがかなり慎重に扱わないと、一度変えると元に戻らないし、システムが壊れてしまうことになる。

現在JSAFはオリンピックに向けての活動が多くなり、外洋系の良さが無くなって行くように感じられる。ここで会費納入のシステムを変更して加盟団体が会員の窓口にならないようなことになれば、会員は離れてしまう。1,2年はいいかもしれないがなぜ高い外洋の会費を払う必要があるのかということになっていく。

このようなことから全てがJSAFに直接入るような会費システムには反対です。

北中：外洋内海の事務作業をやって理解してきた。

引き継いでから10年経ったが、振込は最初、20人～30人だった。

殆どの人が決済代行の振込であったら、外洋内海に入る必要がない。

団体からの報告

・外洋三崎

中里：第2級海上特殊無線技士資格講習会を開催する。

新田：2017年に開催予定の小笠原レースの説明会に18艇の出席があった。

13～15艇の参加を見込んでおり、JSAFに公認の申請をする。

2019年にはグアムレースを開催したいと考えている。

KTSの現在の成績表を配付した。

平井：小笠原レースはカテゴリー2の方が良いのでは。

・外洋東海

河内：配付した資料に全日本選手権の報告と第57回パールレース及びパールレースのダブルハンド参加艇「テティス」の落水者救助訓練の様子、そして沖縄東海レースの報告が載せてある。

1122TREKKEEの申告には動画記録もあり、参考になる。

・外洋内海

妹尾：メルサカ2018年を開催する。

メルサカダブルハンドレースはサンドリングムYCと北港YC、そしてオーシャンレースビクトリアが開催する。

・外洋三浦

平松：昨年につき「若大将カップ」を開催する。エントリーはクルーザーが130艇、ディンギーが30艇となっている。

<協議事項>

1) 会員増強について

平松：ヨットをメジャーなスポーツにしていきたい。

坂谷：会員を増やす意見を出して欲しい。

市来：海事免許の更新時のメリットに気付かない。

5年間に30日以上航海があれば更新講習は不要である。

2) 外洋加盟団体長会議の日程調整について

坂谷：来年の1月22日（日）に加盟団体長会議開催の予定。

2回目の会議を10月とすると間があるので、今後は1月と8月下旬に開催したいが如何か。

夏はレースと重なるという意見が多かったので、来年以降は9月の最終週としたい。

3) その他

河内：都合があり、チタヨットを廃局とした。

尾山：関東4団体で「三崎ヨット」を運用することとなり、事務局を設けた。

廃局したエリアの登録艇の加入を願いたい。

以上。

議事録署名人

平井昭光

妹尾達樹